

普及活動情勢報告（令和3年11月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

施設ニラの物理的害虫防除の取組について



防虫ネットとハウス周りにシートを設置した試験ハウスの様子

施設ニラ栽培では、ネギアザミウマが媒介するIYSVによるえそ条斑病や吸汁痕による品質低下が問題となっています。

そこで、農業改良普及課では今年の6月からJA営農指導員とともに、既存の資材を組み合わせたアザミウマ類の物理的防除の効果について調査しています。ハウス周りに紫外線域高反射機能を持つシートを敷くことで、ハウス内へのアザミウマ類の侵入が抑えられました。一方、ハウス周りの雑草がアザミウマ類の発生数に影響していることがうかがわれました。

農業改良普及課では、部会の講習会やニラ通信などで資材活用によるアザミウマ類の物理的防除を勧め、ハウス周辺の管理の重要性についても改めて生産者に周知していきます。

有望露地品目の探索

～国営農地整備後の営農推進にかかる農家への聞き取り調査～



農家への聞き取りをする普及指導員

10月29日、南国市の露地野菜の産地化に向け、農家5名に対してJA職員と聞き取り調査を行いました。

農業改良普及課は、国営農地整備によって、大規模経営体による水田輪作露地野菜の産地化に向けて取り組んでおり、農家の作りたい品目や作業体系について聞き取り調査を進めています。

今回調査した農家からは、「大規模化に伴う管理面積増に農家が対応できる体制の構築が必要」、「複数品目での栽培ローテーションの検討が必要」などの意見を頂きました。

農業改良普及課は、今後も生産者の意向を確認しながら、新たな土地利用型営農推進に取り組んでいきます。

シシトウの新規就農者の経営安定支援 ～部会長・副部会長による巡回～



仕立て方法を確認する普及指導員

10月21日にJA高知県南国市園芸部中央シシトウ部会の部会長、副会部長と共に新規就農者6戸のほ場を巡回し、栽培状況を確認、指導しました。

新規就農者からは、この時期の枝の管理、曇雨天時の湿度管理、チャノホコリダニの防除などについて質問があり、部会の役員が自らの管理方法を伝授していました。

部会長らによる新規就農者の巡回は前作に続き2回目となりました。このような活動が定着することで、産地で新規就農者を育てる環境作りが出来るよう、農業改良普及課では、引き続き部会と協力して支援していきます。

独立自営を目指す就農希望者への支援
～先進農家での実践研修中の研修生との面談～



先進農家のほ場で研修生と
面談する普及指導員

10月27日、香南市で独立自営就農を目指して先進農家で研修中の研修生を訪問し、研修状況等の聞き取りを行いました。

研修生からは、病虫害の見分け方や整枝、かん水のタイミングが難しいなどの話があり、受入農家の指導の元で実践的な研修ができているようでした。

また、就農後の経営管理について質問があり、記帳グループへの参加や振興センターでの研修会への参加を誘導しました。

農業改良普及課では、研修生や就農して間もない新規就農者を定期的に訪問し、円滑な就農や安定した農業経営の実現に向けて、引き続き関係機関と協力して支援していきます。

今年も美しい「物部ゆず」ができました ～物部柚子生産部会～



物部を代表する
青果用のユズ

10月25日からJ A高知県物部集出荷場において、ユズの荷受けが始まりました。

「物部ゆず」は、青果出荷に特化した産地で、美しい外観と店頭での日持ちの良さを特徴としています。今年は、極端に早い梅雨入りと長雨、その後の日照り続きと、栽培に苦慮した年でしたが、農業改良普及課は関係機関と協力し、7月の夏期管理講習会や日々の巡回指導を行ったことで、適切なタイミングでの防除や果実の日焼け防止対策が徹底でき、「物部ゆず」らしい美しいユズが収穫できました。

農業改良普及課では引き続き関係機関と協力して、産地が誇る品質を維持するための栽培管理指導を行っていきます。

今作最初の目慣らし会、現地検討会を開催！
～土長地区長岡ピーマン部会～



現地検討会の様子

11月5日、J A高知県南国市土長地区長岡ピーマン部会の出荷物目慣らし会及び現地検討会が開催され、生産者12名が3戸のほ場を巡回しました。

農業改良普及課は、農業技術センターが長岡で実証しているカイガラムシ類防除試験内容について説明しました。

生産者からは、「重油が高いが温度管理をどうしているか」、「カイガラは発生するとやっかいなので、引き続き情報提供をお願いしたい」といった声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携してピーマンの安定生産のための支援を行います。

今年は参加者 3 倍増！ ～高知工科大学生のユズ収穫体験学習～



傷つけないよう慎重に
収穫する学生

2年目を迎えた高知工科大学生のユズ収穫体験学習が、11月3日から21日までの土日祝日の7日間開催され、のべ34名が参加しました。

J A 物部柚子生産部会では収穫期の労働力確保が課題となっており、農業改良普及課は、高知工科大学の求める「地域社会での実践的な学びの場」とのマッチングを図り、打ち合わせを重ねて事前学習会を開催し、本番に臨みました。

学生たちは生産者との会話を楽しみながら、農業の楽しさと大変さを体験し「貴重な経験をした」と好評でした。また受入れ農家からは「ありがたいの一言に尽きる」との声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して、産地の労働力確保問題に取り組んでいきます。